

OB通信

鳳 翩

復刊第13号

= 2013年12月 =

山口大学ワンダーフォーゲル部OB会

鳳翩会

目 次

はじめに	鳳翔会会長 武富 敏夫	1
1	本部・支部連絡先	2
2	会長及び事務局からOBの皆さまへ	3
3	OB会（鳳翔会）総会	
	（1）平成25年 YUWV OB会（鳳翔会）総会報告	5
	（2）収支計算書及び貸借対照表	7
	（3）平成25年OB総会を終えて 関西支部 池田 純	9
	平成25年OB総会 in 京都プレイベント『醍醐寺、上醍醐山散策』記録 関西支部 秋山 泰寛	9
4	各支部活動状況（平成25年8月～11月）	
	（1）活動報告並びにご報告 東京支部 秋山 高弘	10
	（2）活動報告 関西支部 池田 純	11
	（3）活動報告 山口支部 池富士 清	11
	山口支部交流会「晩秋の東鳳翔山と、語り部と歩く萩往還」 山口支部 斎藤 昌彦	11
	（4）活動報告 九州支部 武富 敏夫	12
	萩往還（佐々並～明木）と東鳳翔山山行 九州支部 本園 明信	12
5	会員近況	
	（1）還暦1年後からの富士山登山を毎年続け、10回目古希記念登山を完了 東京支部 恵谷 浩	14
	（2）白血病の山歩き 山口支部 野村 英昭	16
	（3）近況報告 九州支部 木下 信一	17
6	北から南から	
	（1）北の国から 青森県 三浦 みほ	18
	（2）リタイア組登山親睦会 東京支部 小田 二郎	20
7	同期会だより 昭和50年卒同期会報告 関西支部 伊藤 浩次	21
8	ワングル今昔 第16回（1979年）萩一宇部80km耐久徒歩 長野県 幸西 義治	22
9	現役活動報告	
	（1）夏合宿結果報告	24
	（2）春合宿案概要	26
10	編集後記	26

はじめに

鳳翔会会長 武富 敏夫

今年の文化勲章では福岡県中間市出身の高倉健が受賞しました。文化勲章は第32代内閣総理大臣で、文官では唯一のA級戦犯となり死刑になった福岡県福岡市出身の広田弘毅の発案によるものです。その制定の経緯は、彼の子供から「軍人には金鵄勲章があるのに、なぜ文化人には勲章がないのか」と疑問を投げ掛けられたからと記憶しています。また、文化勲章の図案は、もともとは桜花に配する曲玉の意匠でしたが、昭和天皇から「桜は昔から武を表す意味に良く用いられているから、文の方面の勲績を賞旌するには橘を用いたらどうか」との意味の思召を拝して制定されたといわれています。

国民栄誉賞では、2月に納屋幸喜(第48代横綱大鵬)が、また5月に長島茂雄と松井秀喜が受賞しました。この賞は「広く国民に敬愛され、社会に明るい希望を与えることに顕著な業績があったものについて、その栄誉を讃えること」を目的としています。

平成25年11月3日現在、文化勲章の受賞者は377名で、そのうち存命者374名、没後追贈者3名です。一方、国民栄誉賞の受賞者は22個人1団体で、没後追贈者が12名と過半数を占めています。「石に布団は着せられず」の例えが当てはまるとは思いませんが、没後に国民栄誉賞を受賞させて何の意味があるのでしょうか。その人の顕著な業績の栄誉を讃えるのであれば、存命中にその賞を与えるのが妥当であると考えるのは、私ひとりだけではないと思います。

冒険家の植村直己はアラスカで行方不明となりましたが、昭和59年4月19日に「世界五大陸最高峰登頂などの功」で国民栄誉賞を受賞しました。この受賞を彼はアラスカの雪の下でどんな思いで受け止めているのでしょうか。

さて、今年のOB総会は、関西支部引受で11月9日(土)～10日(日)に京都いろは旅館において、59名のOB会員の皆さまと2名の現役生の参加で、盛会におこなうことができました。OB総会開催のため準備から企画・運営にあたられた関西支部の皆さまに改めてお礼を申し上げます。ご都合により出席できなかった会員の皆さまには、5ページから総会の議事内容を報告していますのでご一読ください。

議事内容報告のとおり、本総会における会長選任決議により、平成26年1月～平成27年12月までの任期で私が予選され、会長職を重任することが決定しました。2期目となりますが、引き続き鳳翔会のために尽力しますので、OB会員各位のご協力とご支援を賜りますようお願いいたします。

次に本年の活動の主なものについて若干ご報告します。まず第一点はOB会員の維持・拡大への取り組みです。同期世話人の未決定卒年の就任要請及び同期OBの住所情報等の提供要請、住所が判明しているOBへのOB通信送付などをおこない、鳳翔会と会員との連携強化並びに会員の新規(再)加入の促進に取り組んで参りました。第二点はOB通信へのOB会員からの寄稿促進です。今年度は「ワングル今昔」として、工学部主催の萩～宇部間80km耐久徒歩を、また、「北から南から」として支部会員でない方からもOB通信への寄稿を要請して参りました。過去のOB通信を見ますと、OB会員の寄稿は僅かで、現役の活動内容が殆どでしたが、今後はOBからの寄稿を多く掲載することを考えています。

今年は2020年東京オリンピック開催決定、富士山世界遺産登録、異常気象(豪雨、猛暑、竜巻)の発生、食品偽装など、いろいろな出来事がありました。来年はどのような出来事が待ち構えているのでしょうか。来年が良い年でありますよう、皆さまのご健康とご多幸を祈念します。

1 本部・支部連絡先

(本部)

OB会会長

武富 敏夫

(経・45卒)

OB会副会長

池富士 清

(農・47卒)

OB会事務局長

【平成25年12月まで】

浦島 遼平

【平成26年1月以降】

栗林 道

(東京支部)

支部長 城戸 賢嗣 (経・49卒)

副支部長 高田 哲生 (工・49卒)

事務局長 秋山 高弘 (経・53卒)

(関西支部)

支部長 池田 純 (工・51卒)

(山口支部)

支部長 池富士 清 (農・47卒)

本部OB会副会長と同じ

(九州支部)

名誉支部長 永沼 嗣朗 (経・39卒)

支部長 武富 敏夫 (経・45卒)

本部OB会会長と同じ

事務局長 龍 純二 (文理・50卒)

2 会長及び事務局からOBの皆さまへ

(1) OB会費の納入について

会費有効年を経過して会費未納の場合は自然脱会となりますので、会費の支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。脱会になりますと、以後OB通信の発送等OB会からの連絡が途絶えることとなりますのでご注意ください。ただし、当分の間はOB通信を発送します。

会費有効年は、皆さまの宛名書きに記載していますが、今一度会費有効年を確認され、もし、相違している場合は、会長または事務局までお問い合わせ願います。

【OB会費の納入状況についての問い合わせ先(平成26年1月以降)】

会長 武富 敏夫

事務局長 栗林 道

会費有効年に応じて、鳳翔会新規(再)加入のご案内、お知らせ、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票を同封しています。なお、入会申込書及び会則は、既に送付しております。新規(再)加入及び入会を継続される場合は、お手数ですが、同封の郵便局払込取扱票にて下記へ納入くださいますようお願いいたします。同封文書は次のようになっていますのでご確認ください。

ア OB会費未納のため2011年までに会員資格を喪失された皆さま及び新規加入の皆さま 鳳翔会新規(再)加入のご案内、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票

新規加入及び再加入を希望される場合は、郵便局振込とともに、入会申込書を送付いただくか、必要事項を会長または、事務局までメールにてご連絡ください。

【送付先】

郵便番号 753-0841 住所 山口県山口市吉田1677-1 山口大学体育会内
宛先 山口大学ワンダーフォーゲル部

イ 会費有効年が2012年～2014年の皆さま

お知らせ、郵便局払込取扱票

口座記号番号 01530-0-16050

加入者 山口大学ワンダーフォーゲル部

個人会員年会費 2,000円 夫婦会員年会費 3,000円

※ 年会費は、複数年分を一括納入することもできます。一括納入の場合は振り込み金額を単年会費の複数年倍としてください。個人会員の場合、年会費を1,000円の端数で納入されないようお願いいたします。

新規に会費を納入される場合は、会費の有効年は納入年からとして取り扱わせていただきます。

(2) 平成26年鳳翔会本部

会長 武富敏夫(昭和45年卒 経済)
副会長 池富士清(昭和47年卒 農)
監査 古谷真之助(昭和52年卒 経済)
監査 田村伊正(昭和53年卒 工)
事務局長 栗林道 (経済学部4年)

(3) OB総会及び懇親会の写真送付について

OB総会及び懇親会へご出席の会員の皆さまには、CDRを同封しています。どうぞお受け取りください。なお、送付に当たっては万全を期していますが、もし同封されていない場合は、会長までお申し出ください。

(4) 過去に発行されたOB通信の寄贈について

今回のOB通信は平成元年12月発行の第1号から通算して第49号となります。過去、OB通信の発行に携わってこられたOB会員及び現役部員各位に対して敬意を表します。

鳳翔会ではすべてのOB通信を保存する必要があると考えています。現在、平成10年12月発行の第19号以降分からしかありません。それ以前に発行のOB通信をお持ちのOB会員の皆さまがいらっしゃいましたら、是非OB通信の寄贈をお願いします。

送料は鳳翔会で負担いたします。

(送付先)

武富敏夫

(5) 転居先連絡のお願いについて

OBの皆さまの住所確認については万全を期していますが、OB通信の発送の都度、数通が転居先不明で返送されてきます。その後、お知り合いの方に転居先を確認し再送していますが、OB通信の送付が遅れる原因になっています。

転勤等で住所を移転された場合は、速やかに会長及び事務局長まで連絡願います。

(6) OB通信への寄稿について

事務局では、皆さまからのOB通信の寄稿を常時受け付けています。OB通信への掲載を希望される場合は、事務局まで原稿を提出ください。なお、OB通信の発行の準備の都合上、原稿の提出期限は次のとおりお願いします。

なお、OB通信の内容等についてご意見がありましたら、会長及び事務局長までお寄せください。

8月発行分 7月中旬
12月発行分 11月中旬

3 OB会（鳳翔会）総会

(1) 平成25年 YUWV OB会（鳳翔会）総会報告

平成25年のYUWV OB会（鳳翔会）総会が、下記のとおり開催されましたのでご報告いたします。

- 1 日時 平成25年11月9日(土) 17:35~18:00
- 2 場所 いろは旅館
- 3 参加人員 会員59名 現役2名
- 4 議事

開会あいさつの後、議事に先立ち物故者に対して黙とうをおこなった。
総会出席者全員の承認を得て、関西支部古賀利幸氏が議長に選任された。

1) 決議事項

【第一号議案 平成24年会計決算報告承認及び監査報告の件】

会長より、「収支計算書」「貸借対照表」「振替受払通知票」「通帳コピー」に基づき、平成24年1月1日から12月31日までの収支状況並びに平成24年12月31日現在の財産状況の報告がおこなわれた。

次に、監査を代表して古谷眞之介氏より、2月20日会計帳簿等の監査をおこない、平成24年の収支計算及び期末現在の財産状況は適正であると報告がおこなわれた。

質疑応答はなく、平成24年会計決算報告は、出席者全員異議なく承認した。

【第二号議案 平成25年事業報告承認の件】

会長より、OB会則第三章の規定に基づき、1月から11月までの事業結果及び今後の事業予定の報告がおこなわれた。

質疑応答はなく、平成25年事業報告は、出席者全員異議なく承認した。

なお、事業結果及び事業予定は次のとおりである。

- 1) OB総会の開催 11月9日~10日
- 2) 会長等役員選考委員会設置及び選考委員会の開催(6月18日)
- 3) 第一回OB通信の発行 8月11日(発送部数328組)
- 4) 山口大学ワンダーフォーゲル部に対する援助、指導助言等
追いコン出席、新入生勧誘及び海浜合宿支援、OB通信発送後の懇親
- 5) OB会運営体制の整備
同期世話人との連携強化及び就任要請、OBの住所情報提供要請、執行部事務処理手続要領の改訂等
- 6) 第二回OB通信の発行及び会員名簿の作成 12月中旬発送予定

【第三号議案 次期会長選任の件】

副会長より、現会長は平成25年12月31日をもって任期満了となるため、次期会長を選任する必要がある旨の説明があった。次期会長候補者選考にあたっては、6月18日開催の会

長等役員選考委員会において、次期会長候補者として武富敏夫氏を指名し、委員全員異議なく賛成・承認可決し、被指名者も予選を承諾した旨の報告があった。副会長より次期会長候補者として、武富敏夫氏を指名し会場に諮ったところ、出席者全員異議なく承認し、次期会長として武富敏夫氏を選任することが決定した。

【第四号議案 平成 26 年総会開催地承認の件】

会長より、平成 26 年の総会開催地を「東京支部」で実施する旨提案があり、会場に諮ったところ、質疑応答はなく、出席者全員異議なく承認した。

なお、懇親会の席上で、東京支部長城戸賢嗣氏より開催するにあたっての挨拶がおこなわれた。

2) 報告事項

1) 平成 25 年度現役活動報告について

事務局長浦島遼平君の挨拶の後、主将栗林道君より海浜合宿、夏合宿、中四合ワンの特記事項について簡単に報告があった。

(2) 収支計算書及び貸借対照表

収支計算書(平成 24 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

(単位：円)

収入の部		
	平成 24 年入金会費	47,000
	平成 24 年預り金振替	353,000
	寄付金	30,000
	総会残金他	40,270
	<u>預金利息</u>	<u>1</u>
	収入の部合計	470,271
支出の部		
	平成 24 年 OB 通信 8 月号関連	45,675
	平成 24 年 OB 通信 12 月号関連	54,548
	OB 総会関連	41,720
	ホームページ運営費	5,630
	新入生勧誘助成費	50,000
	海浜合宿助成費	30,310
	会長旅費	63,603
	事務局費	22,750
	<u>その他経費</u>	<u>21,956</u>
	経常支出計	336,192
	<u>50 周年記念誌</u>	<u>241,862</u>
	<u>経常外支出計</u>	<u>241,862</u>
	支出の部合計	578,054
収支		
	<u>平成 24 年収支</u>	<u>▲107,783</u>
剰余金		
	<u>前年繰り越し</u>	<u>655,986</u>
	翌年繰り越し	548,203

注)

- 収入の部 寄付金 故山本充二氏ご令室より 30,000 円
- 支出の部 ①新入生勧誘助成費及び海浜合宿助成費は、いずれも新入部員獲得等の費用として鳳翔会から助成しているものです。
- ②事務局費は事務局業務のご苦勞に対して支払いしているものです。
- ③当年は 50 周年記念誌 241,862 円を支出していますので、経常収支は次のとおりとなります。

収入の部	470,271 円
<u>支出の部</u>	<u>336,192 円</u>
収支	135,079 円

貸借対照表(平成 24 年 12 月 31 日現在)

(単位：円)

	科 目	期首残高	当 年		期末残高
			増加	減少	
資 産 の 部	現金	0	12,934	12,934	0
	預金				
	広島貯金事務C	1,834,151	401,270	567,218	1,668,203
	郵便預金通帳	12,933	1	12,934	0
	預金計	1,847,084	401,271	580,152	1,668,203
資産合計		1,847,084	414,205	593,086	1,668,203
負 債 の 部	未払費用	2,098	0	2,098	0
	会費預り金				
	平成23年	0	1,000	1,000	0
	平成24年	353,000	46,000	399,000	0
	平成25年	244,000	66,000	0	310,000
	平成26年	192,000	56,000	0	248,000
	平成27年	143,000	50,000	0	193,000
	平成28年	103,000	46,000	0	149,000
	平成29年	51,000	23,000	0	74,000
	平成30年	32,000	12,000	0	44,000
	平成31年	24,000	9,000	0	33,000
	平成32年	14,000	8,000	0	22,000
	平成33年	5,000	8,000	0	13,000
	平成34年以降	28,000	6,000	0	34,000
会費預り金計	1,189,000	331,000	400,000	1,120,000	
負債合計		1,191,098	331,000	402,098	1,120,000
剰余金	剰余金	655,986	0	107,783	548,203
負債及び剰余金合計		1,847,084	331,000	509,881	1,668,203

(3) 平成 25 年 OB 会総会を終えて

関西支部 支部長 池田 純

OB各位におきましては今年度の京都での総会に多数参加いただきありがとうございました。反省を含めて総会の流れを報告します。昨年の九州での決意表明のあと支部幹事会で進めて来ましたが最初はまず開催場所でした。六甲山や奈良など魅力的な場所は多いのですがネームバリューや交通のアクセスを考えるとやはり京都にとの意見が多く決めました。前回九州開催時間聞いて回った意見も参考にしています。

京都は観光都市であり、宿泊施設に悩むところですが今回（というか前回、前々回）設定したいところは旅館は修学旅行生もよく利用する大衆的な旅館で比較的安く設定できる魅力があります。また場所的にも京阪電車、地下鉄東西線の交差する三条駅にあるためアクセスが良く集まりやすくかつ、お出かけにも便利な場所です。

また今回散策場所に設定した醍醐寺は、幹事会でいくつかあげられたコースの一つです。伏見、鴨川溯上等案がありましたが、やはり世界遺産という魅力があり決めました。ただ反省点として下見を十分行わず決定したため実際に歩いてみると結構時間的に厳しく当初決めた時間スケジュールを変更せざるを得ませんでした。とはいうもののなかなか良いコースだったと自負しています。

あと親睦会で飲んで騒ぐだけでは面白みがないので長野氏にお世話いただき京都の高僧（法然院 梶田貫主様）のお話を聞く企画を設定しました。講話の内容はあらかじめ聞いてなかったのですが、少し難しかったかも知れませんがなかなか経験できないことでもあり良かったのでは。

最後に反省点と、散策責任者秋山氏の醍醐寺散策のレポートを報告させていただきます。

- 1) 募集葉書に参加者および幹事メールアドレス記入欄を設けなかったこと。最近では郵便物よりメールのやり取り多くアドレスを最新版にしておくことは重要です。
- 2) 近況報告欄を設けましたが、皆様にお知らせしてよいかどうかわからず、その旨を事前を書いておけば良かったかな。了解を得ておけば、総会時に閲覧できたかも。
- 3) 連絡先に、私の携帯番号を書いておきましたが、携帯メールアドレスも併記しておけば良かった。電話に出れないことが多くご迷惑をおかけしました。
- 4) 達筆な方が多く住所欄作成に苦労しました。本部が作成してくれた名簿と照らし合わせておけば良かった。等等。

平成 25 年 OB 総会 in 京都 プレイバント『醍醐寺、上醍醐山散策』記録

関西支部 昭和 52 年卒（工） 秋山泰寛

好天に恵まれ 11:00 に当日の総会会場、「いろは旅館」近くの京阪三条 2 番出口集合。久しぶりの懐かしい 31 名の顔ぶれがそろそろ。

11:11 地下鉄三条京阪発（東京支部宮原氏合流、総勢 32 名になる）

11:30 醍醐駅着 スーパーで買い出し

11:50 醍醐駅出発

12:15 上醍醐参道入り口、30 名以上の団体入山料 400 円/人支払い

12:45 秀吉花見跡を経て不動の滝で小休止。（フルマラソンサブスリーの Y 氏が付き添うが途中、女性 1 名残念ながらリタイア、ちょっと登りがきつすぎたか）

13:30 清滝宮拝殿（国宝）、醍醐水、薬師堂（国宝）、如意輪堂（重文）を経て開山堂着。昼食。少し雲がかかっていたが、生駒山系、六甲山系、天王山、男山、大阪平野が一望。日本一の高層ビル、阿倍野ハルカスも展望できた。山崎の合戦跡（天王山付

近)、伏見城などの歴史的地域も見渡せた。晴天ありがたい。

14:00 開山堂発、下山開始。不動の滝で小休止。「折角、遠く京都醍醐寺まで来て醍醐寺伽藍の一つも見学せず帰るのもどうか」という意見が出る。時間的余裕も若干あるので三宝院見学決定。

14:40 下山(M氏、名古屋での私用のため離脱、散策のためだけにわざわざ遠方より起こし頂きありがとうございました)

14:55 三宝院見学。30名団体見学料400円/人支払い、秀吉が基本を作庭したというすばらしい庭を眺め、心休まる。参加者もじっくり楽しまれていたので主催者としても嬉しく思いました。

15:10 醍醐駅着

16:00 いろは旅館着、予定どおりの到着となる。

天候に恵まれ、参加者皆様のご協力のもと、無事終わることができました。楽しんで頂けたと思います。特に、当初の予定には入っていませんでしたが、三宝院の庭園を最後に見学できたことはラッキーでした。何事も予定調和的にいかないものです。臨機応変にやる方がうまくいくことも時にはあるものですね。

実行委員の私の怠慢で記録をつけていなかったため、記録の時間は還暦を迎えた頼りない記憶に頼ったため、多少ずれがあります。ご了解ください。

4 各支部活動状況(平成 25 年 8 月~11 月)

(1) 活動報告並びにご報告

東京支部 事務局長 秋山高弘

(実施済み)

ア H25.9.7(土) 暑気払い懇親会

場所:銀座、かなえ 参加 21 名

大勢の参加を得て大いに盛り上がる。特に今回はS. 57年卒の3名(長谷雄、堀、松沢)が参加し、皆で若返り?を喜ぶ。これからも参加し、若い人を引っ張ってきて欲しいとの声が多かった。

【決定事項】

① 来年度YUWV OB総会の東京支部引き受けを決定

② 秋の日帰り登山について、丹沢山系 大山とし、11月23日(土)に実施

イ H25.11.23(土・祝) 大山登山

場所:伊勢原市 大山 参加 15 名

来年の総会候補地である、丹沢山系 大山の下見を兼ねた山行。

紅葉が真っ盛りの時期で、すごい人出。ケーブルカーが長蛇の列で利用できず、バス終点から山頂まで、すべて徒歩でのハードな行程となった。

バス終点----約 1 時間-----阿夫利神社----約 1 時間半-----大山山頂(奥宮)【昼食】

-----約 1 時間-----見晴台-----30 分-----阿夫利神社---約 1 時間----バス停

またまた長蛇の列のバスに乗り込み、伊勢原駅到着、駅付近の居酒屋で打ち上げ。

来年の総会では、相当工夫が必要なのことがわかりましたが、登山道や神社の紅葉、山頂から

見る相模湾、江の島、遠くは房総半島の景色はすばらしいの一言でした。



(今後の予定)

ウ H26.2～3 東京支部 新年会

(ご連絡)

エ 来年の総会について【予定】

現在東京支部では、来年の総会に向けて準備を開始したところです。

開催日：H26.11.22（土）・23（日） （24日を含め3連休）

場所：神奈川県伊勢原市 大山（おおやま）、オークラフロンティアホテル海老名
箱根、湯河原、小田原、湘南、鎌倉、横浜などに近く、しかも3連休です。

総会に合わせ、早めにご旅行でも企画されてはいかがでしょうか？

東京総会で、皆さんをお待ちしています。

(2) 活動報告

関西支部 支部長 池田 純

9月7日 醍醐寺散策コース下見

秋山、伊藤他

意外と時間がかかることが判明。総会の時間組みの変更と高僧法話の組み入れを決定。

10月19日 京都法然院梶田様面会

長野、池田

11月1日 大阪淀屋橋小松屋 総会打合せ

幹事 11名

(3) 活動報告

山口支部 支部長 池富士清

山口支部の8月以降の活動は、11月の萩往還・鳳凰山トレッキングができたことだけでしたが、来期はもう少し活動を増やせたらと思っています。

H25.11.16～17 山口支部交流会 萩往還・鳳凰山トレッキング 7名参加

山口支部交流会「晩秋の東鳳翩山と、語り部と歩く萩往還」

山口支部 昭和60年卒（農） 齊藤昌彦

去る11月16日と17日に鳳翩会山口支部で「晩秋の東鳳翩山と、語り部と歩く萩往還」が実施されました。参加者は、私のように夜の部だけという者を含めて、7名でした。

当日は、少し雨が気になる天候でしたが、午後から懐かしい二ツ堂から出発して、萩往還沿いに板堂峠を越えて、夏木原交流センターまでの行程を萩往還語り部の古谷さん（昭和52年卒）の説明を聞きながら、3名の方が歩かれました。語り部の内容が豊富だったのか夏木原交流センターへの到着は予定よりも1時間遅れでした。

山行に参加しなかった参加者は予定の時刻になっても現れないメンバーに少し不安になりましたが、紅葉の美しいセンター周辺を散策しながら待っていると元気に峠から下りてこられました。

1時間遅れの到着でしたが、到着後早々にセンターで改めて、語り部から萩往還についてのパワーポイントを見ながら解説を夜が更けるまでお聞きしました。聞くだけでなく、語り部に用意いただいた佐々並林家旅館のお弁当でおなかも満たし、お酒で身体も暖めながら、楽しい夜が更けていきました。



参加されたのは、山口支部長の池富士さん（昭和47年卒）、同年卒の野村さん、49年卒の松林さん、51年卒の日南本さん、52年卒の古谷さん、53年卒の田村さん、そして60年卒の齊藤の7名でした。私のように夜の部だけの参加でも、先輩方から様々な話が聞け、リフレッシュできた一夜でした。また、先輩方の活躍に人生の楽しみ方を勉強する機会にもなりました。

次の朝、まだ、酒臭い息をしながら、東鳳翩山への山行に出て行かれる先輩方の元気そのものに圧倒されましたが、自分も負けずにがんばろうと思えた支部行事でした。

機会があれば、会員のみなさんも支部の行事に参加して見られたら、楽しい一時が過ごせると思います。

(4) 活動報告

H25.10.19 古処山

H25.11.23~24 萩往還～東鳳翩山宿泊山行

九州支部 支部長 武富敏夫

参加人員 5名

参加人員 5名

萩往還(佐々並～明木)と東鳳翩山山行】

九州支部 昭和50年卒 (文理) 本園明信

1) 萩往還

実施日 平成25年11月23日(土)

行程 佐々並支所(11:55)→千持峠→七賢堂の展望台→一升谷の石畳→明木市の街道筋

→乳母の茶屋（16:15）

参加者 石松 武富 北原 前原 本園

ガイド 古谷（昭和52卒）

天候 晴天

距離 約9km

一度は歩いてみたいと思っていた萩往還。今回はガイド付きで紅葉に彩られた美しい山口の晩秋を満喫することができた。

古い道を歩いたり、街並みを見ることがはいろいろな想像をする喜びがある。はぎおうかんー子供の頃によく聞いた往還という言葉の響きにも懐かしさを感じる。

出発地点、佐々並市の道から終点、明木市の街道筋まで歩いたが、古谷さんの説明で長州の歴史や当時の人々の暮らしぶりを知ることができた。



集合場所が佐々並支所になっていたが、辺りの道を見ると、なぜか道の中央に鉄板が敷かれている。

佐々並地区は雪の多いところなので、除雪のために鉄板の下に雪を流し込む工夫をしているという。軒には、たまねぎが行儀良くつるされている。よく見ると、芽が出ないように根を上にして丁寧に糸のようによりあげているとか。説明があって初めて気がつくことが多いのである。

明木では風格のある大きな家と時を経た古木が印象に残っている。また、街並みはいまだ独特の風情をとどめている。萩往還は石畳と木立に囲まれた道が多く、時には清らかな水が往還に沿って流れている。何度歩いても、四季折々の美しさを感じさせてくれるのではないか。次回は明木から萩城跡までの道を歩いてみたい。

2) 東鳳翔山

実施日 平成25年11月24日（日）

行程 天花運動公園駐車場（7:15）→二ツ堂登山口→二ツ堂分岐（8:50）→東鳳翔山（9:19）
→二ツ堂分岐→展望地 699m（10:06）→ショウゲン山分かれ→板堂峠→六軒茶屋跡
→錦鶏の滝駐車場→天花運動公園駐車場（12:05）

参加者 武富 本園

天候 晴天

皆さんと飲んだ前夜の宴が心地よかったのか、熟睡した。早めに旅館を出て、コンビニで朝食を買い東鳳翔山を目指した。朝のすがすがしい空気の中を登っていく。東鳳翔山に登るのは30数年ぶり。

登りはじめの辺りで「ここらは昔、直登しなければならなかったところ。」と武富さん。確かに今

は山道が緩やかに巻いている。良く言えば、山道が整備されているのである。

東鳳翺山が近くによく見える場所で簡単な朝食をとったが、すすきの原だったはずの山に木があちこち生えている。ダムもでき、ずいぶん変わったことを実感した。

二ツ堂分岐に着くと、休息をとっている年配の3人連れの方と話をすることがあった。3人でほとんど毎朝、ここ東鳳翺山に登っているということであった。

その中の女性が言われるには「雨が降っても、傘をさして来てます。」まるで自分の庭先にでも行くような気軽さであった。山口の市内を見下ろす素晴らしい展望がこたえられないのであろう。

下山後は、かんぼの宿湯田（500円）で汗を流した。



5 会員近況

(1) 還暦1年後からの富士山登山を毎年続け、10回目古希記念登山を完了

東京支部 昭和47年卒(文理) 恵谷 浩

「鳳翺2011年12月」に「還暦1年後から始めた富士山登山を毎年続け、目指すは10回目古希記念登山」と題して投稿し掲載してもらいましたが、そのときの概要とその後について報告します。

- ① 2004年9月1～2日 単独行：吉田（河口湖）ルートに登山・下山
- ② 2005年9月16～17日 単独行：吉田ルートに登山・下山
- ③ 2006年8月26～27日 山口大学ワンダーフォーゲル部OB会・東京支部/ 城戸支部長・宮原事務局長（当時）・熊谷・三浦さん同行：吉田ルートに登山・下山
- ④ 2007年9月19～20日 単独行：吉田ルートに登山・下山
- ⑤ 2008年9月5～6日 山口大学ワンダーフォーゲル部OB会・東京支部/ 城戸支部長・宮原事務局長（当時）・北崎・弓削・熊谷・木村夫妻・福永・高津・上田・小田さんとその同行者北崎夫人ら3名を含め総勢14名同行：吉田ルートに登山・下山
- ⑥ 2009年9月10～11日 単独行：吉田ルートに登山・下山
- ⑦ 2010年9月17～18日 山口大学文学部・物理卒同級生1名同行：吉田ルートに登山、須走ルートを下山
- ⑧ 2011年8月27～29日 前年と同一者同行：富士宮ルートに登山・下山
- ⑨ 2012年8月28～30日 単独行：

14：00富士宮口五合目発、宝永山を右手に見ながら登り、夕方の雲海と影富士を眼下にした後、元祖七合目3,030m・山口山荘泊。晴天の下、山口山荘で富士山山肌近くからのご来光を迎え、九合目付近で前年よりも大きな万年雪を見て、山頂・浅間大社奥宮3,720mへ。

10：50剣ヶ峰3,776m、眺望良く北アルプス・南ア・中央ア連峰などを望む。お鉢を右回りに久須志神社の横から須走口登山・下山道を下山し、本七合目3,200m・見晴館泊。

見晴館で正面の雲海からご来光を迎え、下山。途中、多種類の花咲く高山植物を写真に撮りながら、本六合目・瀬戸館では山小屋主人と40分も話し込み、初めて下山道脇にある万年雪に手で触れることを体験。12:30須走口五合目着。

⑩ 2013年8月28～30日 広島県立福山工業高校機械科昭和37年卒業生5名同行：

15:10富士宮口五合目発、薄霧の中に見え隠れする宝永山を右手にしながら登る。次第に天候は良くなり、新七合目2,790m・御来光山荘着。夜には天の川など満天の星空と眼下の御殿場や富士市などの街の明かり、登山者のヘッドランプの列を望み宿泊。御来光山荘でご来光を迎え、途中、万年雪、愛鷹連峰などを望みながら山頂3,720m・浅間大社奥宮へ11:10着。2名は山頂登頂で十分とのこと、4名が剣ヶ峰3,776mへ。残念ながら遠方の雲のため北アルプスなどは見えず。お鉢を右回りに、雲の切れ目から下界を望みながら久須志神社へ。銀水前辺りからは霧につつまれ、吹き飛ばされるのではと思えるほどの突風ともなる強風にさらされながら、浅間大社奥宮へ14:30着。下山開始過ぎ頃から突風は弱まるが強風の下、九合目3,400m・万年雪山荘へ16:00着。先に下った2名と合流し、夕陽による影富士を望み、宿泊。万年雪山荘からのご来光は橙色に染まる雲に阻まれほとんど見えず。薄霧の中、下山し富士宮口五合目10:10着、食堂で全員古希記念富士山登頂成功を祝してビールで乾杯。

以上、10年間富士山登山を続けてきました。富士山は登るものではなくて、眺めるものとも言われるが、毎年の天候や登山ルートなどにより、天空からの刻々変化する眼下の景色・遠方の山々・雲海など、足元のわずかに生える高山植物など、さらに他の山と違って特に多い外国の人、山ガールと子供達、飽きることのない楽しい山行だった。

今年の古希記念登山は、昨年11月に神戸・有馬温泉であった高校の古希の寿祝クラス会参加者30名（卒業2クラス・87名）に登山を呼びかけて行ったものです。また、今年10月に広島県尾道市向東小・中学卒古希記念同窓会が尾道市であり、参加者87名中の63名（卒業4クラス・210名）に古希記念富士山登山を来年8月にと呼びかけた。多くの人への呼びかけなので、登山



参加者が多くて嬉しい悲鳴を上げることになれば良いのだが。

山に登ることで心身ともに活力を得て、今日まで来たように思います。寄る年波には勝てず、2年前からは山小屋に2泊し、ステッキが必需品となっているが、来年の富士山ばかりでなく、今後も登山を続け、健全に喜寿を迎えたいものです。

広島県立福山工業高校機械科昭和37年卒 古希記念富士山登山

剣ヶ峰3,776m

2013年8月29日

一番右が本人

(2) 白血病の山歩き

山口支部 昭和47年卒(文理) 野村(内田)英昭

患者会の通信に書いたものですが、少し手直しして投稿します。途中退部の申し訳ないOBです。現役で仕事をしていますが、学生時代に、短い期間でしたが教えていただいた山の魅力を忘れず、時々歩いています。

.....

慢性骨髄性白血病と診断されて21年、63才。移植はせず、治療は主に週3回のインターフェロンですが、山歩きと温泉のほうが主役のようです。

発病以来、毎年夏は北アルプスなどの涼しいところ、日頃は近くの山へ年平均20回程程度の山歩きです。

ミーハーですから、槍ヶ岳にはコースを変えて4回、「自然遺産」になったというので、屋久島や知床にも出かけました。私を長生きさせてくれている「山歩き」に感謝を込めて、いくつかの感想を書くことにしました。



ハンディがあっても山歩きは楽しめる

元気に見えても病人ですからハンディはあります。今、最大の障害は薬の影響によると思われる貧血と腎機能低下で、急な動きはすぐ息が切れます。だから登りのコースタイムは標準の二倍以上。患者会のついでに行った茨城の筑波山、三重の御在所岳などでは、登りはロープウェイで下りを歩きました。「登山」でなくて「下山」ですね。

少々の貧血でも山は歩けます。ゆっくり体を動かせば、どんな登りもどうということはないのです。ただ、岩登りのようにぶら下がったり、一気に体を引き上げたりを続けることはできません。「歩幅を狭くゆっくり歩く」というのは一つの技術だと思います。このコツをつかんで山を再開できました。きついと感じないペースで歩くには、それができる筋肉と神経がいるようです。

「中高年のおばちゃんたちにどんどん抜かれていく」ことの情けなさや「学生時代には走って登っていたなあ」という感覚を捨てること。まわりの木々や花の色や匂い、鳥や雲の動きや声、そういうものを大事に感じることにしています。最近、野鳥の姿がすぐ目に入るようになり、木々や花の匂いにも敏感になってきたのは薬のせいでしょうか。

もちろん、重い荷物は持てません。小屋5泊の北アルプスでも7kg以内を心掛けて、普段は空荷です。「私はガイド、妻はポーター」という役割分担で、元気な妻には世話になっています。

そのほかにも、ハンディはいろいろあります。数日山に入る時はインターフェロンを山小屋で注射しなければなりません。何だか「怪しい」雰囲気になります。気兼ねしなくていいようにテントも使うことがあります。

山歩きの楽しみいろいろ

最近は何といってもそれぞれの季節の色。新緑、紅葉、雪、自然がこんなに多彩だったということに感激しています。「山笑う」という季語など、ようやく意味が分かってきました。

それぞれの季節の花も楽しみ。晩秋から初春は主に県内の低山で、陽あたりのいい山道には、ず

いぶん早くからスミシも見つかります。4月に入ると、寂地山（山口県）のカタクリからはじまって、アケボノツツジ、シャクナゲ、ミヤマキリシマ、ササユリ・・・九州、中国、四国の範囲で、その季節にタイミングよく行くことをこころがけています。最近はインターネットでリアルタイムの情報が入るので助かります。

高校卒業まで大分県ですから、九重山のミヤマキリシマはずっと馴染んでいたのですが、十数年前に九重・大船山で見た光景は忘れられません。旧火口原に出るといきなり広がるピンク。小さい花がびっしりと密集し、こんもりとピンクにふくらんだ木が重なりあって、座布団を重ねて敷き詰めたよう。「絨毯でなく座布団」と実感したこの時の感激は、その後毎年行っていますが二度と味わっていません。同じ山でも、季節、天候、虫などいろんな要素で毎年花の状況は違いますね。

最近は、季節のものを食べることも楽しみにしています。フキノトウ、ツクシ、たら芽、ワラビ、木苺など…、今年の秋もムカゴを少しいただきました。自然の命を少しずつ分けていただくことで、また寿命が延びるような気持ちになります。

病人でも山歩きができる、平和な社会でこれからも

でも考えてみれば、普通の庶民が先端的な治療を受け、白血病になりながら山歩きを楽しめるとするのは幸せなこと。こんなことは、世界でも、そして日本の歴史のなかでもまれなことでしょう。

「戦争をしない国」だったからだと思います。戦時中は、病人や障害者は「お国のために役に立たない」と見下される存在でした。「国民皆保険」になったのもわずか50年前です。ところが今、勇ましい掛け声、きなくさい臭いとともに「勝ち組、負け組」、「命の沙汰も金次第」などという殺伐とした気配が広がり始めています。

白血病 21年、こんなに人生を楽しませてもらっている病人の恩返しとして、今一番考えていることは、後の世代に「戦争をしない国」をなんとしても残したいということです。そして、病人が邪魔にされる世の中は、今健康な人にとっても困る社会、私が病気とともに生きていることは意味のあることなんだ、と胸を張って人生を楽しみたいと思っています。

発病した当初、当時は「死ぬ病」でしたから、「残された人生を楽しく」と「百書、百山、百酒、百人」というスローガンを掲げました。（「百人とはなんだ？」と突っ込まれましたが…）22年も過ぎて、新鮮さが失われていますが、まだまだ先の長い人生を楽しみたいと思います。

(3) 近況報告

九州支部 昭和52年卒（経済） 木下信一

一昨年に同期の古谷君から50周年総会の知らせを受け、山口で総会に出席したのを機に、九州支部に時々出席しています。最近までOB会に出ていませんでしたが、55歳の時に退職し関連の職場に再就職したため、少しは出席できるようになりました。

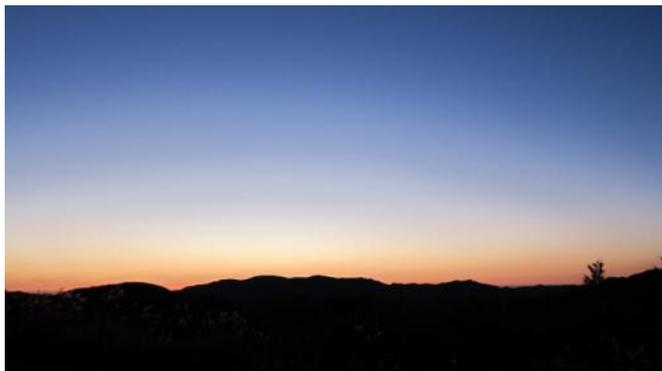
50周年記念の総会や、九州支部での総会は懐かしい人達に会うことができました。30年以上経っても顔立ちから誰だかすぐ解る人もおられました。他方で髪の毛等に想定外の変身をされた方もおられました。大手企業の役員さんや建設会社の社長さん、司法書士の先生など、皆さん大変立派に活躍されておられるようです。

私は卒業後福岡の銀行に就職しましたが、朝7時から夜11時まで仕事という生活から少しでも離れたくて、小倉の「みずた山の店」で会員募集広告のあった山の会に入り、福智山等九州北部の山歩きを始めました。

その後、夏に背振の金山で沢登りをしたことや、冬に北アルプスの稜線近くでテントを張って寝たときに寒さでよく眠れなかったこともあり。岩登りは、皿倉山を手始めに、北九州の平尾

台近辺、糸島の野北や山口市の陶ヶ岳等で練習をしました。

夏に剣岳の岩場に会長さんと2人で登攀したときは、高度感もあり、緊張しましたが、会長さんのおかげで無事に登ることができました。



の駐車場から見た脊梁山地の夜明けの風景で、下の写真はこの駐車場にてデジカメで5分間1枚撮りの昴です。この場所は街灯もなく、脊梁山地に囲まれているため遠方も街の明かりが全く見られません（少し遠いですが）。



しかしその後、冬山や沢での会員の遭難や病気などが続いたため、会も解散状態になり、山から遠ざかってしまいました。

山に登った時には風景等を撮影していましたが、最近はずっと、山間部で星の撮影をしています。福岡市内の明るい空でも撮影は可能ですが、空の暗い山間部で撮影した星の写真はきれいです。

上の写真は宮崎県の実瀬ハイランドスキー場

天体写真の同好会ではCANという会があり、昨年6月には福岡県で開催されたので参加しましたが、関東方面からも職業や年齢の異なる人達が集まり、なかなか盛会でした。

現在の仕事は、不動産の調査と評価業務ですが、来年定年退職なので、そろそろ次の職場を探さなくてはと思います。まあ、どうなるかわかりませんが、仕事も趣味も続けられるようにできれば良いのですが。

6 北から南から

(1) 北の国から

青森県 昭和62年卒（教育） 三浦みほ

大学に入学したのが昭和58年、今から30年も前のことになります。兵庫県出身のため、同じ高校から山口大学に入学したのは私と理学部に一人だけ。湯田温泉駅で降りたときには、ずいぶん遠くに来た感じがしました。

高校生のときに家族で西穂高に登ったことが印象に残り、大学ではワンダーフォーゲル部へ入部しましたが、新歓登山で東鳳山に登ったときには、星の数と大きさに感動しながらも、目の前にいる沢山の酔っぱらいを見て、「私は、こんなことをしていていいのだろうか。」とも思ったものです。

山ではいつも酔っぱらいがいることも含めて、ワンゲルで積み重ねた経験は全てが大切でかけがえないものとして、今もわたしの生活の根底にあります。

大学を卒業した後は兵庫で就職したのですが、今は結婚して青森に住んでいます。青森市民になってもう20年です。

本州の最南端と最北端の県に住んだ経験があり、博多弁、山口弁、広島弁、関西弁と津軽弁が理解できるバイリンガルな人間はそうそういないと、そのことは密かに私の自慢でもあります。

ただ、津軽弁には日本語表記不可能な特有の発音があり(「い」と「え」の間や「し」と「す」の間の発音…)、兵庫生まれの私には、何年かかっても話すほうは無理のようです。



さて、青森市からは八甲田山、岩木山が綺麗に見えます。下の子が3才になった年から毎年八甲田山に子供達を連れて行きました。

八甲田山にはロープウェイがあり、山頂駅から比較的簡単に稜線歩きを楽しむことができます。特に10月は、紅葉を追いかけて1週目は山頂、2週目は山中にある鶯沼、次の週は山麓の紅葉山(文字通り楓の木ばかりの小さな山)…というように毎週八甲田山周辺に出かけていました。

おかげで子供達は情緒豊かな子に育ち…と思ったのですが、私のはやる気持ちがどうも道を間違えたようです。

強風の八甲田、下の子はそれ以来そのときの感覚がトラウマとなり「山はやだ」と…。悔やんでも悔やみきれない出来事でした。

でも、感性はしっかりとワンダーフォーゲルのDNAを身につけてくれました。

我が家は俗に言う大変な「男の子3人」ですが、ウチの子達はみんな自然が大好きで、きれいなものは素直に



きれいと言ってくれるそんな子達に育ってくれました。夫も自然大好き人間で、単身赴任をいいことにバレルとは考えない行動の浅はかさでバイクを購入、忙しいとは言って山を走り回っています。

冬になると、毎週土日はスキー場へ連れて行き、1月から3月まではスキー三昧でした。

大きくなった今は全員そろっていくことはなくなりましたが、やっぱりスキーは大好きなようです。子供たちには私たちの趣味を押しかあるとき、自然大好きDNAが花咲くのではないのでしょうか。

山大ワンダーフォーゲルの精神は遠い北の国で間違いなく生きています。

皆さんにご報告します。遙か長州の教えは確実に津軽の地で生きています。いつでも遊びにおいで下さい。できる限り応援します。 山口大学……………ばんざーい！！

日程とコースタイム

9月3日 南木曾岳山麓 蘭(あやらぎ) キャンプ場 集合

9月4日 登山口駐車場 7:06→下山道分岐 7:46→頂上 9:26

12:22←11:56←11:32 ← 9:39

温泉入浴後 開田高原 PENSION J-HOUSE 泊

9月5日 朝食後記念撮影解散

参加者 堺原(昭和40年卒) 吉永夫妻(昭和42年卒) 長野(昭和44年卒)

守沖夫妻(昭和44年卒) 弓削夫妻(昭和44年卒) 木村夫妻(昭和46年卒)

小田(昭和48年卒)

リタイア者による親睦登山も今年で6回目を数えることとなりました。今回も企画から宿の手配、果ては飯炊きまで木村さんに世話してもらいました。木村さん申し訳ありません。

昨年の御嶽登山に続き木曾谷を舞台とし近くには島崎藤村で有名な妻籠や馬籠、旧中山道跡・古くは木曾義仲出兵の地など名所旧跡には事欠かず、また中高年者には必須の温泉ももちろん備えているというロケーションで南木曾岳(標高1677m)登山を企画してもらいました。

また登山にはどうしても体力的に自信がないという方向けには滝めぐりや近隣の名所旧跡を散策することができるプランです。

今年の特徴は何といっても参加メンバーを見てもらうと判る通り夫妻での参加が増えて単身参加者をしのぐことです。

さて当日、南木曾岳山麓あやらぎキャンプ場に途中から参加の吉永さん夫妻を除くメンバーが時刻全員無事各自の車で揃いました。キャンプ場はロッジが何棟もありそのうち3棟に分宿、一番広いロッジは簡易なキッチンや電気まで便宜がはかられていました。

長野さん用意の一流ホテル謹製のこだわりのレトルトカレーでの食事をとり明日の登山を控え当日は早めに就寝となりました。暑くもなく寒くもないベストコンディションでしたが、小生は両隣に季節外れの蛙の合唱に悩まされ眠れない夜を過ごすこととなりました。

登山で一番気になる山の天気ですが、九州沖の台風17号とそれに刺激されて活動が活発な前線が北陸から日本海付近に張り出し心配されましたが善男善女の集まりということで、頂上を過ぎたあたりで小雨がぱらつき上着だけ雨具を着用することはありましたが、それも暫くで曇天のなか何とかもててくれました。

当日の宿に着く頃は結構な雨だったことを思うとラッキーだったのでしょう。登山口駐車場はキャンプ場まで車で



2～3分のところにあり、登山口からは林の中の登山道を登り下山道との分岐を過ぎると、丸太の橋や梯子また鎖場も一部あるところを登ることとなりました。

周囲には高野槇が林をなしています。登山道は古くは修験者の修行の山だけあって急登です。橋や梯子に使われている丸太は古く朽ちてはいますが見かけ以上にしっかりしており、折れるとかの怖れはありませんでしたが、昨夜来の雨で丸太や木の根っこが湿り非常にすべりやすく、非常に気を使いました。登りと下りで道を分けているのもこのせいかと思われます。

山での関心の一つが展望ですが、あいにく雲がかかり本来なら見えるはずの南アルプス・中央アルプスの雄大な姿を拝むことはかないませんでした。下山も登りと同様鎖場や丸太の梯子をいくつも下り、ほぼコースタイムに沿って下山、皆さん元気です。下山後周囲散策組（守沖夫妻・木村夫人）と近くのホテル木曾路館で落ち合い、温泉に浸り登山の汗を流し再度の昼食をとりました。

その後今日の宿泊場所である開田高原にある PENSION J-HOUSE にむけ車で向かいました。

宿となるペンションは瀟洒な表の建物と別に丸太でのログハウスに分かれ、当日宿泊は我々のみの貸し切り状態でした。

ペンションで感心するのが何れも食事の美味しいことです。今年も例にもれず美味しくいただきました。（ホテルや旅館よりもペンションの方が食事は良いのかも）

食後は持ち寄りのアルコールを飲みながらラウンジと部屋に分かれての談論。翌日朝食後全員で集合写真を撮り解散となりました。

小生より近況報告を一言

退職後は登山と囲碁でぶらぶらしています。登山は70歳までに深田久弥の百名山踏破を目指しています。今夏は北海道をレンタカーで回り7座を登ったのと、この登山後、恵那山を登頂し累計62座を登ったことになりました。

囲碁は近所の碁会所で無給で子供囲碁教室の講師をしています。教室の子からこの度小学4年生の子が、千葉市・市原市の地区大会の初段以下の部で初段で参加し2位になりました。かくいう小生も4段以上の部で参加同じく2位となり、なんとか子供の手前師匠の面目をほどこしました。

年齢から自分の棋力の向上が望めない現状のなか、周囲は下手が教えるのでは絶対無理だと言いますが、出藍の誉れということもあると反論し子供の中からプロ、ないし院生を育てるのが、小生の夢となっています。

7 同期会だより

昭和50年卒同期会報告

関西支部 S50年卒（経済） 伊藤浩次

定年が間近に見えてきた頃、同期の集まりで盛り上がり始めた年1回の北アルプス山行は今年で5回目となった。11名参加。そして今回、ついに全員が還暦を越えていた。

2013年8月3日から3泊4日で猿倉から大雪渓を登り白馬岳山頂へ、そして白馬鑓温泉の湯を目指す。私の一番の目的は鑓温泉に浸かること。目的がそうなら鑓温泉に直行したいくらいであったが・・・。

白馬大雪渓は学生時代と社会人になって間もない頃の2回登ったことがあり、雪渓上の涼風の印象が強く何となく安心感があったのだが、この日（8月4日）は雨、視界が悪いせいもあり大雪渓に立っても山の状況他、当時の事は何も蘇ってはこない。むしろ思い出せなくて良かったのかも。

雪渓に取り付いて直ぐに雨が本降りとなり雪渓上の足元が不安定の中、簡易アイゼンを付けたままの靴をレインウェアの裾に通す。先が思いやられる。苦しい登山となってコースタイムを遥かに越え

てやっとのことで、白馬頂上山荘に到着。昔は多分コースタイムくらいでは登っているはずだが、体力の低下は如何ともし難い。

ただ今回の登山、白馬近辺は高山植物が豊富で、登山道脇の花に足を止め「これは何だ、いや違う」と喧々諤々、カメラを向けたり、ザックから植物図鑑が出たり学生時代のガッツイっていた登山スタイルとは隔世の感がある。

ただしこれも時間を要した一因とはなったが。

想定外だったのはトイシ。雪渓から稜線の白馬頂上山荘までのコースタイムにして4時間30分の間、用を足せるところが全くなかったこと。



雪渓上は予想されていたが、雪渓が終わってもお花畑を保護する為、登山道から外れる事は厳しく制限されており、監視員も見回っている。還暦登山者には苦行であった。

続く8月5日も雨、白馬鑓岳から、いよいよ白馬鑓温泉小屋へ、シーズンだけの高度2100Mの雲上温泉、都合3回の入浴、念願叶う。

(裸の男性ばかりの中へ一人水着で入浴している女性あり。脱帽！)

8月6日 猿倉へ下山 ある程度高度を下げるまでこの日も雨が降ったり止んだり。最後まで雨に祟られ、体力の限界を感じさせる山行となった。

しんどかったけどビールは旨かったし、温泉も良かったし、本当に楽しい山行でした。同期の皆さんに感謝！

8 ワンゲル今昔

第16回(1979年) 萩-宇部80km耐久徒歩

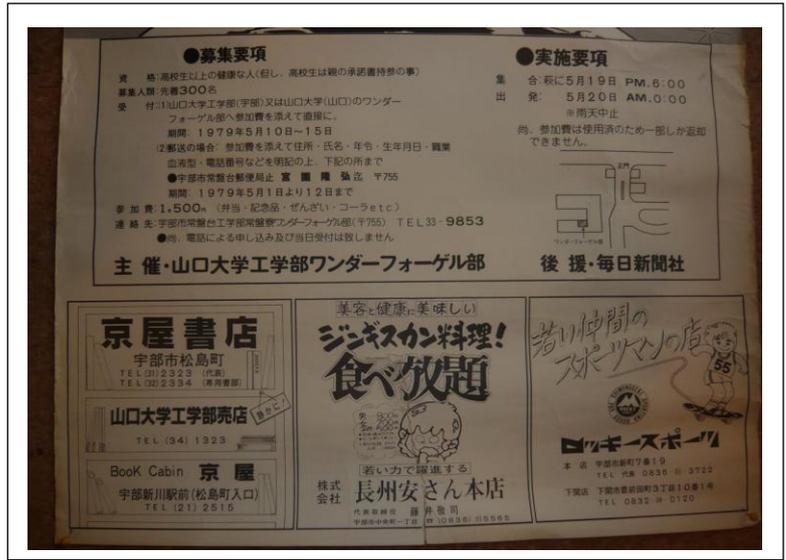
長野県 昭和56年卒(工) 幸西義治

鳳翻復刊第12号の「チンコロ姐ちゃんの萩-宇部80km耐久徒歩レース」を拝読し工学部部室に「チンコロ姐ちゃん」も含めて歴代の80km耐久徒歩のポスターが保管されていたことが思い出されました。今でも保管されているでしょうか。

私がなぜ良く覚えているかと申しますと、これらのポスターを参考に第16回大会(3年生の時)のポスターを描いたからで、特に有名な富永一郎先生デザインのポスターがあることに驚いたからです。萩-宇部80km耐久徒歩は工学部ワンゲルにとっては春夏合宿と並ぶ一大イベントであり学生時代の大切な経験と思い出となっています。

第16回大会時、私は宇部の大会本部に居たため耐久徒歩自体の記憶はあまりありませんが我が家にある学生時代のガラクタ箱を開いてみたところいくつか懐かしの耐久徒歩グッズが見つかりましたのでご紹介いたします。

まずは先にお話した第16回のポスターです。



今改めて見ると大会前年（1978年）に日本公開されたスター・ウォーズのまったくのパクリ。ただキャッチコピーの「星の中を歩いてみませんか」はそれなりに気に入っていた記憶があります。ノートにサインペンで描いた図案でしたがよく印刷屋は引き受けてくれたものでした。

募集要項をみますと後援はなんと「毎日新聞社」、これまたよく後援になってくれたものです。

募集期間5日間で人員300名、参加費1,500円、申込みはワンダーフォーゲル部もしくは宇部市常盤台郵便局止め ***迄、集合は5月19日PM6:00に萩に集合・・・、参加受付時に詳細の要項を渡していたと思いますが、まあ、なんとも大雑把なことか。

スポンサーには京屋書店、長州安さん、ロッキースポーツと懐かし名前が見られます。インターネットで調べてみると京屋書店は健在、ロッキースポーツはこの時代では宇部が本店、下関が支店でしたが「ロッキースポーツ下関宇部店」となっていました。

<要項の表紙 第14回のもの>



<80km 耐久徒歩腕章>



学生の財布と胃袋の味方（それとも当時は我々貧乏学生には高級料亭だったかも？）、長州安さんは見つからず「海鮮長州本店」という店がありましたので店名を変えたのか？その他にも第16回の物ではありませんが要項（写真は表紙）、80km耐久徒歩腕章、夜間の団体歩行から夜明け後の個人歩行に移る前に撮ったパーティー写真、「栄光のゴール（工学校門前）」の写真などが出て来ました。

<パーティー写真>



<栄光のゴール 工学部校門前>



大会当日は萩市の川島公民館に集合、公民館と隣の善福寺に分かれて仮眠後、300人前後の群衆が近くの大橋上で大会開会式、ラジオ体操を行い午前0時に宇部に向けて出発をしましたが、今なら色々と許可申請や制約があったことでしょうか。学生のやることに結構大目であった時代といえ、いちクラブの大学生がよく主催していたと感じます。

準備、運営と今ではその時の大変さはほとんど覚えていませんがその時の仲間との思い出、繋がりは今でも宝物です。80km 耐久徒歩は現在も行われているのでしょうか？ぜひ後輩の方々にもこの経験を味わってもらいたいものです。

ところで今回、この原稿を書くにあたり萩-宇部間の道程をバイパスも出来ていたり昔のことで道程も忘れていたのでインターネットのナビゲーションサイトでナビの示すままにですが確認してみたところ川島公民館-工学部校門までの距離は丁度60km??? さて残り20kmは何処に。

9 現役活動報告

(1) 夏合宿結果報告

(ア) 後立山縦走 (2013.08.21~27)

工学部 2 回生 古宮山健太郎

・計画作成等：2年が担当（3年は助言）

・パーティー構成

A Party：5名（3年：2 2年：2 1年：1） PL：小宮山健太郎

B Party：5名（3年：1 2年：2 1年：2） PL：小林遼大

・山行概要

A・B Party

この度、夏合宿でA・B-Partyの責任者兼A-PartyのPLを務めさせていただきました工学部、機械工学科、2回生の古宮山健太郎です。

8月21日 湯田温泉駅～大阪駅～夜行バス（アプローチ）

8月22日 夜行バスとゴンドラ、ロープウェイで榎池自然園に到着後、天気に恵まれ予定通り白馬大池山荘でテント泊を行いました。

8月23日 この日は午後から天気が大きく崩れてしまい白馬山荘まで歩き、山荘に泊まりました。

8月24日 強風のため動けず、すぐ近くにある白馬頂上宿舎にテント泊を行いました。

8月25日 風が弱まるのをまって天狗山荘まで歩いてテント泊を行いました。

8月26日 天狗山荘を出発して天狗ノ大下りと不帰嶮を経て唐松岳頂上山荘でテント泊を行いました。

8月27日 最終日は朝、雨が降っていたので出発が遅れましたが全員無事に下山することができました。

・合宿を終えて

今回の合宿は、色々な事があり内容の濃いものだったと思います。楽しいことも多かったです。しかし、反省するべき点も多く、今後の合宿に活かせるようにしていきたいと思います。

(イ) 北アルプス〈ピストン〉(2013.8.31~9.5)

農学部2回生 毎熊七緒美

今年の夏合宿C・Dパーティーは8月31日から9月5日まで北アルプスへいきました。丁度その時台風が接近したこともあり、一日沈をすることとなりましたが、無事予定の場所には全て行くことができました。

・山行概要

8月31日 湯田温泉駅始発→京都駅着 夜行バス京都発(この日は朝から晩までアプローチのため電車とバスの移動となりました。)

9月1日 夜行バス富山着 室堂線富山→雷鳥沢キャンプ場(この日もほぼアプローチでした。移動中は雨も降っていました。)

9月2日 雨により沈(テントに基本居ました。)

9月3日 雷鳥沢キャンプ場→室堂乗越→奥大日岳→室堂乗越→雷鳥沢キャンプ場

(この日曇りではありましたが、途中で雨が降ってくることもなく無事登山できました。奥大日岳は比較的登りやすく、下山後もまだまだ体力が有り余っているような人が多く見受けられました。)

9月4日 雷鳥沢キャンプ場→一ノ越山荘→雄山→別山→別山乗越→雷鳥沢キャンプ場(まだ夜が明ける前に出発し、登山中日の出を見ました。雄山の頂上では登頂記念として立山雄山神社に参拝しました。山行中は晴れ、無事にキャンプ場まで戻ってくることができました。)

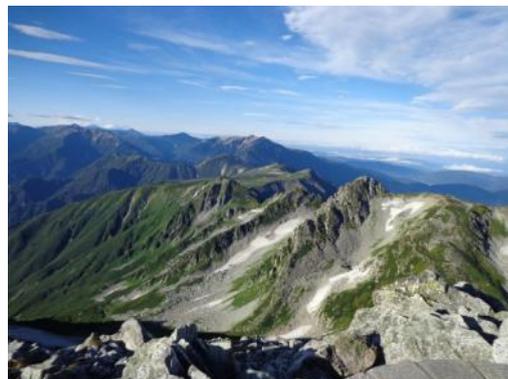
9月5日 雷鳥沢キャンプ場→室堂→室堂ターミナル→立山駅→富山駅(富山で解散。)

・夏合宿を終えて

今回は天候にとっても振り回されましたが、問題は何も起こらず本当に良かったなと思います。

登っている時は大変でしたが、山頂に着いた時にはすごく達成感がありました。

班員同士楽しそうに話す姿もよく見受けられ、全体を通して楽しく充実した合宿となったと思います。



(2) 春合宿案概要

(ア) 奄美大島

人文学部2回生 小林遼大

今年の春合宿は、2つのチームに分かれて行きます。その内の1つのチームは、奄美大島で3泊4日程度の行程を組む予定です。

自然を間近に感じること、また事前の計画段階から合宿を通して部員の団結を深めることを目標とします。

まだ行程は決定していませんが、黒潮の森マングローブパーク・奄美フォレスポリス・青の洞窟などを訪れようかと考えています

(イ) 西表島（サバイバル）

教育学部2回生 濱田未来

今年の春合宿では、西表島でサバイバル合宿をするチームを結成しました。

西表島の自然をその身を以て体感することを目標とします。

何をするかなどの計画はまだあまり進んでいませんが、過去のサバイバル資料を参考にしつつ新しいことを取り入れ、楽しい春合宿にしたいと考えています。

10 編集後記

今年は冬があっという間にやってきました。下関では5年ぶりとなる11月での初雪を観測したようです。山が紅葉に染まったかと思えば、息つく間もなく雪が降り葉も散っていく…。自身の研究もそんな感じで次から次へとやるべき事が舞い込んで、てんてこ舞いな日々を過ごしております。会長、副会長には本当にいつも助けていただいて感謝しております。

私事ですが、先日研究の合間をぬって長門峡へと行ってきました。完全に葉の落ちた栂もありました



が、まだまだ山は紅葉色に染まっていました。写真の場所は紅葉橋です。私は長門峡駅からスタートしたのですが、途中ご年配の方に何度か追い越されて、健脚だなと思う反面自分の体力が衰えつつあることにショックを受けました。やはり研究も大事ですが、体を動かすことも大事だということを改めて実感しました。

最後になりますが、今回OB通信の原稿を寄稿して下さった皆様、そして編集に携わった皆様に深く感謝申し上げます。

事務局長 浦島